

6. まとめ

(1) 調査目的からの課題設定と論点

本調査は、子どもがいない非正規雇用のシングル女性がどのような行政施策の対象となるかを考えるために行った。

非正規シングル女性の課題を明確にするため、子どものいない非正規既婚女性との対比を設定し調査を実施し、その調査結果を用いて、非正規シングル女性の描写あるいは説明（見える化）の実現を試みた。それにより、非正規シングル女性の中長期の課題、とくに老後設計について労働、社会保障、生活の3つのカテゴリーにおいて考察した。

考察により導かれたのは、非正規シングル女性の労働と生活の展望の課題は以下の4つの課題領域が関連して存在しているということであった。

生活を維持し続けることは、労働により所得を確保し、住まい、消費することである。また血縁のある人、ない人と、さらには多様な交流を通じて相互に支えあい日々の暮らしを維持することである。そうした活動全体の実現をここでは生活サステナビリティと名付ける。

人は、働き生活するとき、職場や家族とともに生活のサステナビリティを実践している。社会や地域において家族単位が前提とされるとき、大人はもちろん子どもの学校や地域活動を通じた生活サステナビリティが行われる。たとえば学校行事への参加や廃品回収などは、知らず知らずのうちに地域社会の維持に貢献している。地方自治体のサービスも子どもや高齢者を介して入手できることがある。また職場との交流・交渉により多様な情報が家族や個人に流入する。メディアや金銭を媒介とした以外の情報入手や人のつながりは、さまざまな形で生活をささえている。

(2) 生活サステナビリティ実現を支える4領域

生活サステナビリティの実現には、次の4点が非正規シングル女性にとって必要であるとの結論に至った。あるいは、次の4点すべてあるいはいくつかは不足していることが、非正規シングル女性の生活サステナビリティを脅かすであろうという仮説にいたっている。

第1に、今現在かかわっている組織、制度、場に関する理解力としてのリテラシーである。

第2に、今はないが今後想定されるリスクについての判断力の形成である。

第3に、多様な情報入手チャンネルの確立と地方自治体や国の諸制度の活用や接点である。

そして第4に、もっとも身近な資源である「家族」、あるいは、それに代わる何らかのつながりの確保や形成である。

第1のリテラシーは、学びと情報提供によるエンパワメントといえる。現在置かれている状況と制度を適切に理解し、利用あるいはステップアップの道へつなげる力がリテラシ

一獲得である。

第2のリスク判断力は、少し先を想像する力のエンパワメントとも言える。現在の職場を確保するには、スキルアップするには、あるいは職場でよい関係性を構築するにはなど、生活の「すこし先」は多様である。そして決して派手なものでもない。

第3の政策チャンネルへのアクセスは、地域、政策や制度についての確かな情報をいかに入手するかに関わる。近年増加している災害の防災の観点からもネットやメディアだけでなく、「ひと」経由の政策チャンネルは欠かせない。複雑で多様な政策が展開されるなか、本当は自分にとって必要な政策にアクセスするアンテナをはるという意味もある。

そして第4に、すでにあまりにも当たり前存在している家族や身近な「ひと」のつながりが思いがけず生活を支えていることを再確認することもエンパワメントである。今回の調査から、非正規シングル女性にとって、職場という「場」や「ひと」のつながりの意義をあらためて確認できた。

本調査結果の考察を通じて、以上の4領域を非正規シングル女性のエンパワメントのルートとして認識することができた。非正規シングル女性は中長期的には課題は多い。そもそも低賃金労働者としての雇用条件の改善自体が大きな社会課題である。しかし、上記の4領域のうちに見いだされるいくつかの課題を意識し解決することによって、現在の状況よりステージを「ワンステージアップ」することは不可能ではない。「ワンステージアップ」に向けた諸策を、上記4領域を手がかりに構築することから非正規シングル女性の労働と生活の展望が拓けるといえよう。

